

1. 授業の概要(ねらい)

一口に金融論と言っても、そのカバーする分野はかなり広範に及びます。家計・企業の資金調達や運用(ファイナンス)、金融機関によるリレーションシップ・バンキング、日本銀行による非伝統的金融政策、ユーロ圏諸国で発生した債務危機(ユーロ危機)問題など、これまで報道で取り上げられてきた事項のごく一部を列挙しただけでも、扱う分野の広さは理解できるでしょう。

「金融論」の講義では、金融に関する基礎的知識について学び、金融関連のニュースを正しく理解すると同時に、日本経済に与える影響を説明できるようになることを目指すものとします。

「金融論 I」では、経済学的な観点から金融を理解するために貨幣、金利などの基礎的な事項を学習するほか、主として銀行が担う間接金融、証券会社による直接金融など、金融活動を行う組織や仕組み、ならびに制度的枠組みである金融システムについて学びます。

2. 授業の到達目標

(1) 経済学的知識を用いて、金融の基礎的事項を学習するとともに、さまざまな金融の形態、組織や仕組み、制度的枠組みである金融システムについて学習する。

(2) 習得した金融システムに関する知識を用いて金融関連の報道を正しく理解し、日本経済において果たす役割を説明できるようになる。

3. 成績評価の方法および基準

(1) 期末試験70%をベースとして、講義において不定期に課す小テスト・課題レポート提出(複数回)30%を加味して、総合的に評価します。

(2) 合格ラインにわずかに満たない場合で、出席状況のほか日頃の受講姿勢を勘案して合格とすることもあるので、まじめに取り組んで下さい。

4. 教科書・参考文献

参考文献

家森信善 『金融論(第2版)』 中央経済社、2019年

酒井良清・鹿野嘉昭 『金融システム(第4版)』 有斐閣、2011年

浅子和美・飯塚信夫・篠原総一 『入門・日本経済(第5版)』 有斐閣、2015年

5. 準備学修の内容

(1) 講義前に参考書の関連部分を熟読し、疑問点などをチェックして講義に臨んで下さい。

(2) 講義内容の要点を記載したレジュメを毎回配付するほか、必要に応じて配付する資料に基づいて、入門レベルの金融論で必要な論理的な考え方を丁寧に解説することを心掛けるつもりです。帰宅してから、その日の講義内容を見直すなど、復習に重点を置いて取り組んで下さい。

6. その他履修上の注意事項

(1) 入門レベルの金融論を体系立てて理解するため、「金融論Ⅱ」の連続履修を希望します。

(2) 講義中の私語など、他の受講生に迷惑を掛ける行為があった場合には、成績評価に際して大幅減点、あるいは不合格とすることがあります。

7. 授業内容

- 【第1回】 <ガイダンス>
授業目的、授業方法、成績評価、準備学修および授業内容について
- 【第2回】 <講義> 貨幣とは
- 【第3回】 <講義> 金利と金融市場
- 【第4回】 <講義> マクロモデルと金融:IS-LMモデル
- 【第5回】 <講義> 貨幣供給のメカニズム
- 【第6回】 <講義> 金融政策の概観(1):伝統的金融政策
- 【第7回】 <講義> 金融政策の概観(2):非伝統的金融政策
- 【第8回】 <講義> 間接金融
- 【第9回】 <講義> 直接金融
- 【第10回】 <講義> 公的金融と財政投融资
- 【第11回】 <講義> 金融システムの安定化のための政策
- 【第12回】 <講義> 金融機関の破綻への対応策
- 【第13回】 <講義> 金融市場に関する規制
- 【第14回】 <講義> 主な金融商品(間接金融型・直接金融型)
- 【第15回】 <まとめ>
1) 講義の総括
2) 期末試験